

# 令和4年度 真壁城跡中城庭園の調査

## — 18代氏幹による庭園大改造 —

主催 桜川市教育委員会

### 調査の要旨

真壁城跡は平成6年(1994)10月28日に国史跡に指定され、平成9年(1997)に遺構の保護や史跡整備のための調査を開始し、二の丸・中城・外曲輪で調査を実施。現在は中城庭園の全体像の解明を目指して、今年度は中城地区中央部を掘り下げて補足調査を行っている。

- 今年度の主な成果として4つのことが挙げられる。
- トピック1：薬研堀状の水路の年代を特定！  
その手がかりとなったものとは？
- トピック2：北池と北土塁の関係性が明らかに！
- トピック3：池を造り変えて自分好みに！～下層池～
- トピック4：池を造り変えて自分好みに！～調整池～



中国・漳州窯産  
染付碗 底部  
16世紀後半



中国・景德鎮産  
染付碗  
16世紀後半



以上のことから、17代久幹が庭園の基礎を造り上げ、代替り後の18代氏幹がそれを基盤とし、当時の流行も取り入れながら庭園の大改造を行ったことが分かった。今回出土した遺物や遺構は中城庭園の変遷をたどることができる重要な発見となった。

### ●庭園内の出土遺物

計10万点を超える土器・陶磁器などの破片が出土。大規模建物群などで繰り返し酒宴が行われた為か、遺物のほとんどが酒杯(かわらけ)。他に、茶室などで使用されたと考えられる茶道具(中国産・瀬戸美濃産の天目茶碗や茶器、中国産の染付磁器や青磁)なども出土。



▲かわらけ出土状況

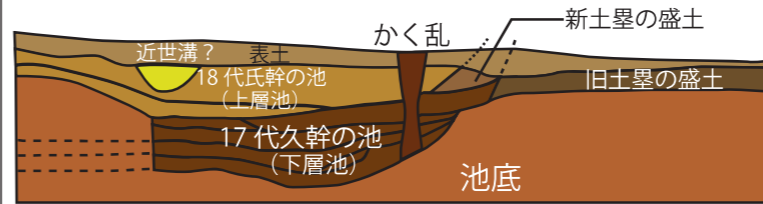
トピック3 トピック1 トピック2・4

たけもと	とももと	ときもと	ひでもと	とももと
初代長幹	2代友幹	3代時幹	11代秀幹	13代朝幹
1180頃	御家人		1422	1550頃
登場氏	なるに		没落氏	真壁城
			享徳の乱	1561
			復帰氏	1569
				手這坂
				1573
				1590
				1602
				廢城

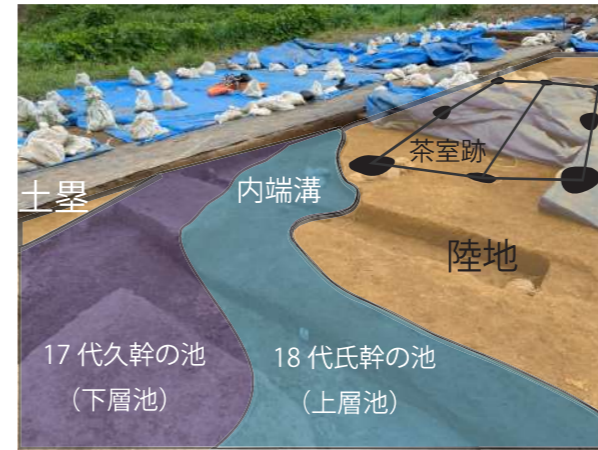
### トピック2：北池と北土塁の関係性が明らかに！

北池とは？

平成26～28年度(2014～2016)に調査が行われた、中城中央部北辺の土塁裾に掘られた池。東西約27m、南北約17mあることが判明。その中心部には東西約15m、南北約8mの大きな中島もみえる。地形が低い北西に堰や薬研堀状の水路を設置し、排水機能を持たせていることも分かった。



▲断面模式図



▲北池と土塁内端溝の接続部分(写真下が北)

17代久幹の時に下層池と北土塁は造成された。代替り後、18代氏幹が下層池の北辺を埋め立て、北土塁を南側に拡張、盛土をして強固なものへと造り変えた。土塁の裾と接続するように新たな池を設け、土塁の内端溝として排水機能も兼ね備えていることが明らかとなった。

中島は当初、L字型の島であると想定していたが、長方形の島であることが判明した。

### トピック4：池を造り変えて自分好みに！

～調整池～

調整池とは？

中城庭園の中を南北にのびる水路状の池の北端にあり、下層池の南に位置している。平成26～27年度(2014～2015)に調査が行われた際、中島や石組遺構、北池と北土塁東側の内端溝に接することが分かった。

18代氏幹が池を造成、改変をしたと想定していた。だが、17代久幹が造成した下層池の底の整地土と特徴が似ている層があることや、18代氏幹が下層池を埋め立て造り直していることを断面で確認できたことから、2代にわたり機能しつつも代替りに造り変えられたことが判明。

### トピック3：池を造り変えて自分好みに！

～久幹の池～

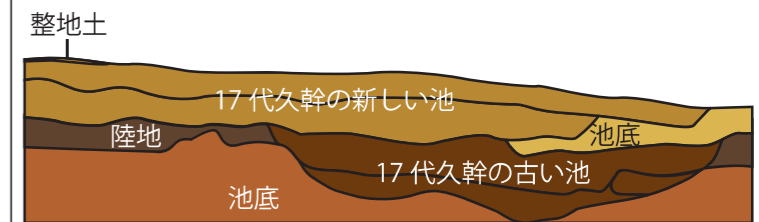
下層池とは？

17代久幹の素掘りの池。南岸は砂敷き、景石がある。北池の造り変えや建物の構築に際して粘質土で埋められた。



▲遺物出土状況(写真下が北)

(左：東トレンチ(池底掘削前)、右：西トレンチ)



▲久幹の池 東トレンチの東側断面模式図

古い池の縁は東トレンチ内の北部と南部で確認され、東側に巡るような形であることが明らかに。池が細く張り出すような形状をしていたか。その後それを埋めて、底に粘土を張り、浅くした新しい池へと造り変えた。池の縁は東・西トレンチの南部でのみ確認されたので、池が広範囲であったと想定できる。

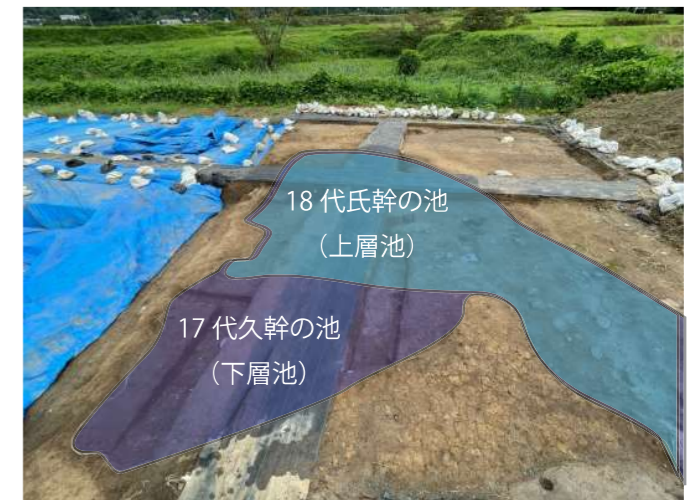
### トピック4：池を造り変えて自分好みに！

～調整池～

調整池とは？

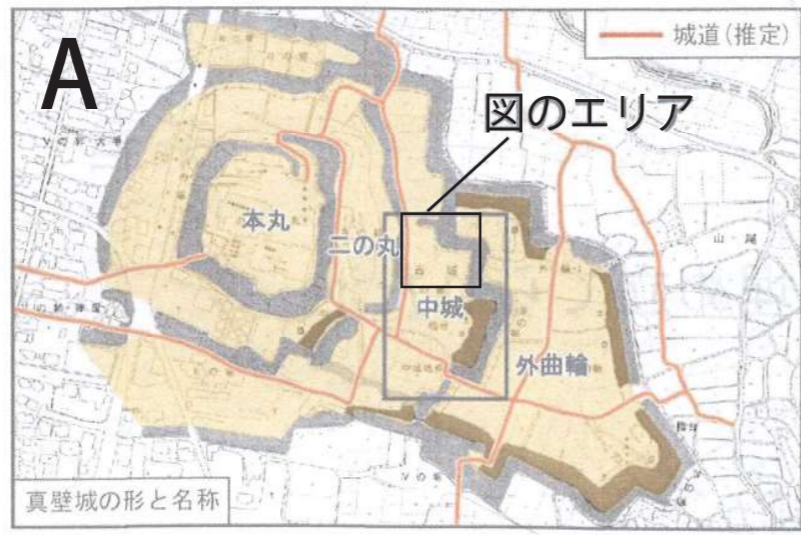
中城庭園の中を南北にのびる水路状の池の北端にあり、下層池の南に位置している。平成26～27年度(2014～2015)に調査が行われた際、中島や石組遺構、北池と北土塁東側の内端溝に接することが分かった。

18代氏幹が池を造成、改変をしたと想定していた。だが、17代久幹が造成した下層池の底の整地土と特徴が似ている層があることや、18代氏幹が下層池を埋め立て造り直していることを断面で確認できたことから、2代にわたり機能しつつも代替りに造り変えられたことが判明。



▲調整池全体図(写真左が北)

# 発掘の裏側に潜入!



▲北池掘削中



▲水路底から出土したかわらけを清掃中



▲写真記録のために土器をきれいに!



▲出土した遺物を取り上げています



▲図面を見ながら協議中



▲記録作業 (測量と写真撮影)